

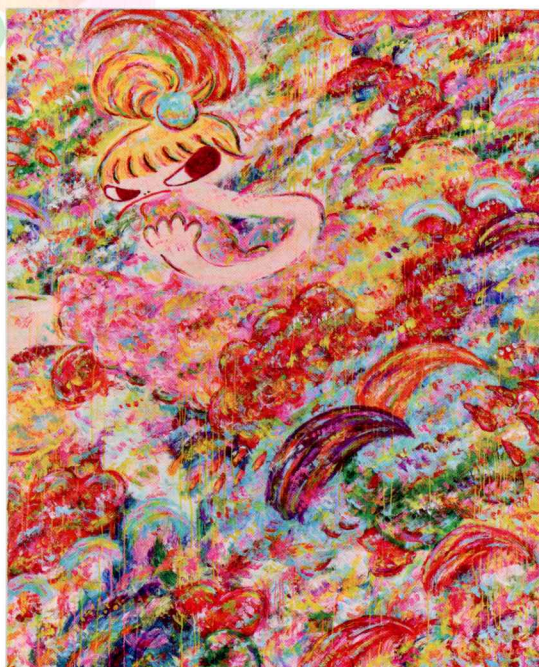
# みる かたる つくる

2020 VOL.47  
(通巻109号)



ART NEWS  
千葉県立美術館報

## 「魔法の手 ロッカクアヤコ作品展」開催中!



ロッカクアヤコ 《Untitled》2020年

ロッカクアヤコ（1982年～）は千葉市出身のアーティストです。20歳頃から独学で絵を始めて、絵筆を使わず手に直接絵の具をつけて、段ボールやキャンバスに描く独特のスタイルを確立します。村上隆氏の主宰するアート・イベントGEI S A Iに参加し、2006年にスカウト賞を受賞して以降、評価を高め、オランダ、スロバキアで個展を開催するなど世界的に注目を集め、現在はポルトガルを拠点に活動しています。

ロッカクは初期から一貫して、手の直接の手触りの中でイメージを発見し、勢いある自在なタッチとネオンカラーのカラフルな色彩により、どこともつかないランドスケープを漂う大きな目の少女を描きます。背景の色彩はどんどん溢れ出るように動きを増し、みずみずしい輝きを放つ色彩世界を作り出します。

さらに、ロッカクは本展で、様々な「形」に取り組み新たな境地を見せます。「宇宙戦争」と題したシェイプド・キャンバスによるシリーズは、ロッカクのドローイングそのままの形にかたどられたキャンバスに描きます。少女たちはもくもくとした雲のようだったり、丸みを帯びたり、少しとがったりするバリエーション豊かな宇宙船に乗り込みます。展示室の壁面を

### 開催概要

会 期／ 令和2年10月31日(土)  
～令和3年1月11日(月・祝)  
開館時間／ 午前9時～午後4時30分  
休 館 日／ 月曜日(月曜日が祝日の場合は翌火曜日)  
年末年始(12月28日～1月4日)  
入 場 料／ 一般300円 高大生150円  
(中学生以下・65歳以上・障害者手帳をお持ちの方と介護者1名は無料)  
主 催／ 千葉県立美術館  
特別協力／ GALLERY TARGET  
協 力／ ペリエ千葉



ロッカクアヤコ 《宇宙戦争》2020年

縦横に駆け巡るように展示される約30点の作品は、平等院鳳凰堂の飛天を思わせるところがあり、神聖さがあると共に、楽しげで軽快なインスタレーションとなります。さらに、「フラワーベース」では、タモ材の一輪挿しの360度にイメージを展開します。約60点は形も大小も実に様々ですが、どれも花瓶ではなく、花一輪のみを生ける「一輪挿し」です。自然の風合いとロッカク独特のカラフルな色彩が見事に響き合います。

本展は、当館での滞在制作を含む未発表の新作を中心に約160点で構成します。充実したボリュームの展示作品は皆、ポジティブなエネルギーに満ち、新型コロナウイルス流行による先行きの不透明な時代には、特に新鮮で魅力的に映ります。国内の公立美術館では初の大規模な作品展です。

令和2年度特別展 日本文化の華

# 大相撲展

Beauty of Japanese Culture  
Oh!SUMO EXHIBITION



菱川師宣《相撲の図》寛文～延宝年間  
公益財団法人日本相撲協会相撲博物館蔵



実寸大土俵

浮世絵の祖として知られる菱川師宣は、安房国保田（現・千葉県安房郡鋸南町）に縫箔師・菱川吉左衛門の長男として生まれました。はじめ家業を継いだものの、江戸に出て狩野、土佐、長谷川派などの諸派を独学で学び、やがて個人様式を確立したと考えられています。版本挿絵を中心に活動していましたが、後に一枚絵で鑑賞する版画の形態を確立し、彼の美人画は俳諧に詠われるほどに大流行しました。

《相撲の図》は、師宣による肉筆画の1点です。土俵が現在知られるような円形に並べられた俵の形で出現するのは17世紀後半、ちょうどこの作品が描かれた頃であり、本作は土俵を描いた最初期の美術作品として知られています。土俵出現以前の相撲では、「ひとかたや」と称する人垣や、円形にした大竹を用いて場を囲い、境界線としていました。

土俵の中で、取組をする力士の横に行司が立っています。彼が手にしているのは、軍配ではなく扇子です。

## 来春、「千葉県美場所」開幕！

### 開催概要

会 期／ 令和3年1月16日(土)～3月21日(日)

開館時間／ 午前9時～午後4時30分

休 館 日／ 月曜日、3月2日(火)

入 場 料／ 一般1,000円 高大生500円

(中学生以下・65歳以上・障害者手帳をお持ちの方と介護者1名は無料)

主 催／ 千葉県立美術館

特別協力／ 東映株式会社、ぴあ株式会社

協 力／ 公益財団法人日本相撲協会、浜名梱包輸送株式会社、相撲情報誌TSUNA、株式会社ベースボール・マガジン社、株式会社報知新聞社、相撲ファン(順不同)

後 援／ NHK千葉放送局、千葉県ケーブルテレビ協議会、朝日新聞社千葉総局、産経新聞社千葉総局、東京新聞千葉支局、日本経済新聞社千葉支局、毎日新聞社千葉支局、読売新聞千葉支局、千葉テレビ放送、ペイエフエム、千葉日報社(順不同)

関連事業／ トークショーなどを実施予定

現在大相撲で扇子が使われることはありませんが、本作が描かれた当時の勧進相撲では、このように扇子が使われることも珍しいことではありませんでした。

「日本文化の華 大相撲展」では、本作をはじめ、享保17年の番付表や相撲を題材にした錦絵などを展示いたします。あわせて、明治から昭和にかけて活躍し、相撲博物館二代目館長を務めたほどの相撲愛好家でもある、船橋市ゆかりの彫刻家・石井鶴三の彫刻作品、油彩作品もご紹介します。

会場では、大相撲を取り巻く品々の実物もご覧いただけます。力士の着流しや呼出しの装束、懸賞幕などを見れば、相撲の世界には日本人の美意識が結集されていることを読み取ることができるでしょう。さらに、相撲部屋からの借用品を展示するコーナーや記念撮影コーナーを設けているほか、会場内に実寸大の土俵を再現することで、奥深い相撲の魅力を「観て、知って、体験する」ことができます。

江戸時代、師宣が相撲を楽しむ人々を生き生きとユーモラスに描き出したときと変わらず、今でも相撲は日本人にとって欠かせない娯楽の一つであり、多くのファンに愛されています。本展が相撲の面白さ、そして日本人の美意識を再発見する機会となれば幸いです。

## コレクション展

当館は、約2,800点の作品を収蔵しています。当館の“顔”とも言えるこれらの収蔵作品を、これまで「アート・コレクション展」として様々な切り口でご紹介してきましたが、今年度から「コレクション展」と改称し、収蔵品の中から特に厳選して紹介する「名品」と、テーマに沿って紹介する「テーマ展示」の二本立ての構成となりました。今後のコレクション展のラインナップにご期待ください。

### 第3期コレクション展「名品」

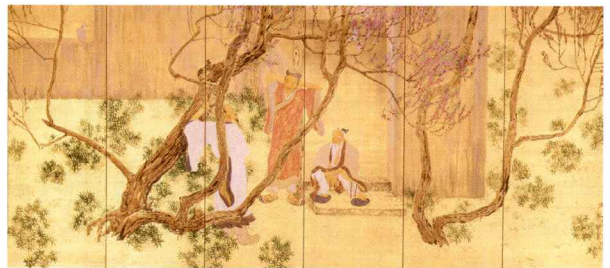
10月31日（土）から始まる第3期のコレクション展「名品」では、当館の所蔵品から特に鑑賞の要望の高い日本画・洋画・彫刻の各分野の作品を厳選して38点展示します。

その中から、日本画1点、洋画1点を紹介します。

日本画は、石井林響《桃源》です。林響は旧制千葉中学校で堀江正章に学んだ後、上京し、橋本雅邦に師事。第1回文展（文部省美術展覧会）に23歳で入選するなど、若くして頭角を現しました。今回展示する《桃源》と《漁樵》は、対の作品として第7回文展に出品し、《桃源》のみ入選しました。これは中国の陶淵明（365～427）の『桃花源記』を題材にした作品で、《漁樵》に描かれた洞窟は、《桃源》の入口へと導かれているようです。

洋画は、ドービニー《オワーズ川のほとり》です。ドービニーはアトリエに仕立てた船で、川を廻りました。オワーズ川はドービニーが好んだ写生地です。夕暮れの時の空の様子や川面に映る草木の様子など、刻々と変わる光の印象を追求する姿勢は、後の印象派に影響を及ぼしました。

このほか、東山魁夷《春雪》、浅井忠《本と花》、板倉鼎《巴里風景》、高村光太郎《手》、藤田喬平《飾宮朱雀》なども展示しています。



石井林響《桃源》1913年



シャルル・フランソワ・ドービニー  
《オワーズ川のほとり》  
1865年

### 学芸員が選ぶ“この一点”

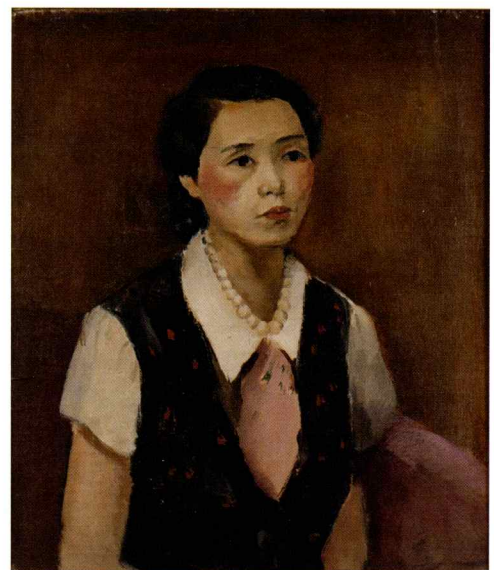
### 原勝郎《夫人像》

原勝郎（1889～1966）は、山武郡山辺村（現・千葉県大網白里市）に生まれました。農家の次男であり家業を継ぐことができず、絵画に関心を持って上京し、葵橋洋画研究所に学びます。フランスでの制作を志し、大正7（1918）年にまずハワイに渡り、挿絵で生計を立てました。フランス生活の資金を得るため、次にアメリカ本土のロサンゼルスで葡萄農園で働きます。

大正11（1922）年に渡仏し、パリのペロニー街にアトリエを構えて生活を始めました。独身であった原は、友人の彫刻家・木内克の紹介で、教師であり洋裁を勉強していた富樫のぶ子と結婚し日本から呼び寄せました。勝郎44歳、のぶ子32歳でした。

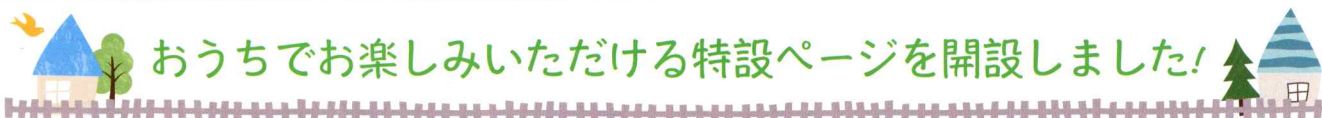
本作は、滞欧中にのぶ子をモデルにしたもので、勝郎が残した数少ない人物を描いた油彩画の一つです。意志の強い女性であったというのぶ子ですが、本作の柔らかい雰囲気は夫に見せる家庭の顔だったのかもしれません。

のぶ子は勝郎とのフランスでの暮らしを経て、フランス式の立体的裁断を紹介し、日本で初めてファッションショーを開催するなど、日本の洋裁黎明期を支えたデザイナーの一人となりました。



原勝郎《夫人像》1922～1939年  
キャンバス・油彩  
530×455(mm)

※この作品は第3期コレクション展「名品」でご覧いただけます。



当館では新型コロナウイルスによる臨時休館中、ご自宅でアートを楽しんでいただけるよう、特設ページ「おうちでアートをたのしもう」をHP上に開設しました。ここではその内容を一部ご紹介します。

「Ch\_AIR」では、今年1月にスウェーデンから来館したヨセフィン・ヴェイリッシ・ワタナベ氏によるライブペインティングの様子を撮影した動画と、完成した作品の画像を紹介しています。“Early Spring（早春）”と名付けられた展覧会タイトルのとおり、春の訪れとともに生き生きと輝き出す自然の様子が、第7展示室前の窓ガラス全面を使って自由に描き出されていく様子をお楽しみいただけます。

解説シート「パリの浅井忠～パリ到着の年～」では、近代日本洋画の先駆者として活躍した浅井忠の、フランス留学時のパリの様子を紹介した解説シートを掲載しています。浅井本人の日記を基に、当館学芸員による現地調査時の豊富な写真とともに紹介したシートからは、1900年のパリの様子が色鮮やかに浮かび上がってきます。

「デジタルミュージアム」は、千葉の県立博物館・美術館8館によるインターネット上の展覧会です。当館は計10個のコンテンツを公開しており、美術館のコレクションを

解説とともにご自宅でお楽しみいただけます。

「モチーフと文様 ワークシート」は、会期途中で臨時休館になったArt Collection「北詰コレクション メタルアートの世界IV」（予定会期：令和2年1月18日～4月12日）の展示内容を基に作成したワークシートです。当館の金工コレクションの柱である北詰コレクション（平成28年度に寄贈）を中心に、金工作品のモチーフのユニークな魅力や文様の不思議をご紹介します。

資料紹介「富取風堂～色彩の追及～ ラウル・デュフィの模写から」では、大正から昭和にかけて活躍した日本画家・富取風堂のスケッチブックをもとに、作家が普段どのような関心を持っていたのか、日々の探求や試行錯誤の跡をご覧ください。完成された作品から見えるものとは少し異なる、作家の新たな一面を垣間見ることができます。



「おうちでアートをたのしもう」HP画面ぜひ実際にご覧ください！

## ワークショップのご紹介

当館では例年ワークショップを開催し、幼児から小学生までの子どもたちを対象に、美術館をより身近な場所として親しんでいただいています。昨年度のワークショップでは、「自由な発想を基になにかを創り出す」ことを楽しんでいる子どもたちの姿がとても印象的でした。

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、残念ながら当面のあいだ開催を取りやめていましたが、このたび、感染状況を注視しながらワークショップの開催準備を始めました。現在、植草学園大学森高研究室の協力のもと、12月5日（土）にクリスマスワークショップ、2月20日（土）にスプリングワークショップの開催を予定しています。

上記の予定については今後変更となる可能性がございますが、ぜひご参加いただければ幸いです。詳しくは当館HPをご確認ください。

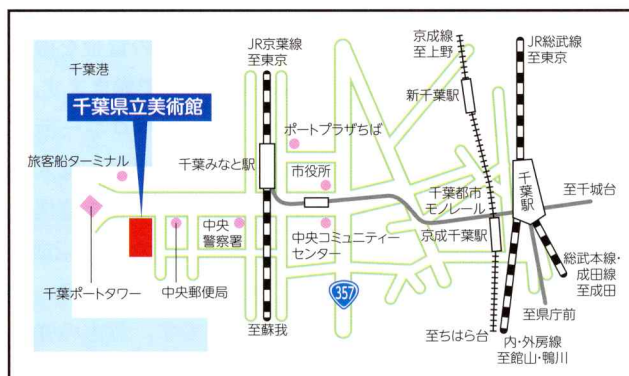


昨年度のワークショップの様子

## 【新型コロナウイルス感染症対策について】

千葉県立美術館は、新型コロナウイルスの感染防止対策を講じた上で開館しております。

ご来館の皆様におかれましては、当館受付・HPに掲載しております「感染拡大防止へのご協力をお願い」をご確認いただきますよう、お願いいたします。



〒260-0024 千葉市中央区中央1-10-1  
Tel.043-242-8311 Fax.043-241-7880  
URL:<http://www2.chiba-muse.or.jp/ART/>  
千葉県立美術館報「みる かたる つくる」VOL.47  
(通巻109号)  
2020年11月20日発行

